

**第3次山縣市総合計画及び  
第3期山縣市デジタル田園都市国家構想総合戦略  
計画のあり方、作業・スケジュール**

令和5年2月

# (ア)総合計画・総合戦略策定における基本的な考え方

地方自治体の運営・地域経済は、少子高齢化に伴う人口減少、人口の大都市圏一極集中、新型コロナウイルス感染拡大、ロシアによるウクライナ侵攻の影響による物価上昇など様々な影響を受けています。

これらの課題に立ち向かうため、行政と住民が手を取り合う協働によるまちづくりが一層重要になっており、そのため、**わかりやすく簡潔な、住民目線での総合計画**にしていく必要があります。

一方で、総合計画はまちづくりの指針となるものであり、行政が推進する事業・業務の根拠となるものであるため、総合計画が「市職員のバイブル」として活用されることを想定した策定プロセスも大切な視点であると考えます。

少子高齢化・人口減少

新型コロナウイルス

大都市圏一極集中

地域コミュニティの希薄化

景気の低迷

etc... 多種多様かつ複雑な課題

地方自治の環境は、厳しさを増しており、  
**官民協働で**  
**持続的な自治体運営を図ることが重要**となっている

両立する計画に

職員のバイブルとなる計画

住民にもわかりやすい計画



なるほど。  
この事業を実施する根拠は  
これだったのね!



読みやすくなったね!

# (ア)総合計画・総合戦略策定における基本的な考え方

## 総合計画をとりまく国や地方自治体の動向

平成23年8月、「地方自治法の一部を改正する法律(平成23年法律第35号)」が施行され、それまで義務付けられていた「基本構想」策定の規定が廃止されましたが、多くの自治体において総合計画は継続して策定されています。

こうしたなか、総合計画の策定手法にも変化が起きています。

まちづくりの指針となる**総合計画に、人口減少対策の重点施策を盛り込み、総合戦略との一体化が試みられました**。また、近年では「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を総合計画に落とし込んだ計画体系など、多様な計画スタイルが取り組まれています。

第3次山口市総合計画の策定にあたっては、「第3期山口市デジタル田園都市国家構想総合戦略」と一体的な策定を行います。

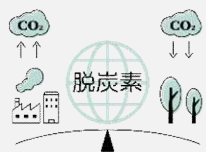
## 考慮すべき社会の動向

### SDGs



SDGsの考え方は、現在では広く一般的になりつつあり、まちづくりにおいても無視できない課題となりました。自然豊かで四季折々の色彩に彩られる環境を有する山口市は、SDGsの推進を総合計画の基調に置くことで地域特性がさらに輝く自治体であり、**各施策を17のゴールに紐づけることはもとより、169のターゲットを意識した施策展開を図ることが重要です**。

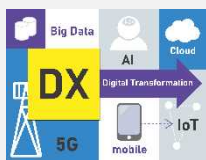
### GX



二酸化炭素の排出を実質ゼロにする動きは世界的なものとなっており、日本でも90以上の自治体が**2050年の100%削減**に向けて動き出しました。

「ゼロカーボン」の取組を始めた山口市においても、今後5年、10年のまちづくりにおいては**マイナスカーボンへの動きを踏まえた施策展開で情報発信力を強化する**必要があります。

### DX・FX

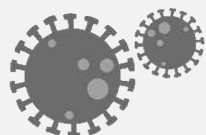


デジタル技術やAI等の活用により業務効率化を図り、人的資源を行政サービスの更なる向上につなげる取組が求められています。

デジタルファースト宣言が全国各地でなされるなか、「自治体DX」が急速に進み始め、その格差が広がろうとしており、本市においても**全世代にとってメリットのあるかたちでDXを推進する**必要があります。

また、公共施設等の老朽化が進み、維持管理が全国的に課題になっています。人口減少時代に合わせた適正規模の施設管理にシフトしていく必要があります。

### COVID-19



新型コロナウイルスへの対応は、ワクチン接種による集団免疫の獲得によって収束に向かう可能性があります。一方で、**感染予防と介護予防の両立、働き方改革、地方居住などの新しい生活様式を踏まえた「山口市としての将来の見通し」を示す**必要があります。

# (イ)策定方針及び計画策定のポイント

## 誰にとってもわかりやすい計画づくり

住民はもちろん、職員にとってもわかりやすい計画づくりを目指します。

**基本目標1 住むひと・働くひと みんなで創るまち**

**1 主体的な住民活動支援**

5年間の施策の目標

住民と協力しながら地域づくりを推進し、一人ひとりが活躍できるまちづくりを目指します。

**1**

**3**

**現況と課題**

**住民参加型によるまちづくりの必要性**

経済活動や情報化社会の進展、住民ニーズの多様化・高度化などを背景に、これまでの行政主導によるまちづくりでは、地域の特性を生かした個性豊かなまちづくりを進めていくことが難しくなっている場面もあります。

そこに暮らす人々が本心から「まち」をつくっていくためには、住民参加による協働のまちづくりが必要になります。

**2**

**住民一人ひとりが多様性の尊重への意識を持つことの必要性**

互いに人権を尊重し、性別や国籍などに拘わることなく、一人ひとりが持っている個性や能力を十分に発揮できる豊かなまちづくりを目指していくことが必要です。

**4**

**気軽に集まり、話し合える環境の必要性**

本町には、志所の人同士が寄り合って、お茶を飲みながら話をする習慣があります。しかし、単社会になり、高齢化が進んでいることによって、こうした習慣も少なくなっています。高齢者が気軽に集まり、お茶を飲む習慣から、まちの向後や子どもや孫の話を、気軽に語り合える環境づくりが求められています。

**5**

**達成目標**

項目	数値	単位	達成率
住民参加型によるまちづくりの推進	0	件	0
花のまちプロジェクトに参画する団体数/年	0	件	0
リビングラボによる事業の推進	0	件	0

**6**

**わたしたちができること**

多様性を尊重し、助け合う協働のまちづくりに気軽に参画

**3**

**主要な施策・取り組み**

**住民が考える地域づくりの推進**

地域の振興および活性化を図るため、地域住民自らが発案したアイデアによる地域づくりを実施する事業に対して、町から積極的に補助金を交付するなど、地域住民やボランティア団体などと連携した住民協働の事業を積極的に実施していきます。

また、地域の高齢化や若い世代の不足に生ずる各種団体の構成の見直しや再編についても検討していきます。

**4**

**花のまちプロジェクトの推進**

住民が主体となって、花で彩られる美しい環境を創出する各地域において整備し、花の魅力によって町に誇りをもたらし、若手町民に全国から多くのひとが訪れるようなまちづくりを進めます。

令和2年度からは、地域で花壇整備を行った団体や企業に町から補助金を交付する「花のまちプロジェクト」を実施しており、今後も事業の拡大と、花をテーマとした住民参加型のまちづくりを進めていきます。

**5**

**すべてのひとが活躍できるまちづくり**

多様性の尊重とともに、高齢化や少子化、雇用困難など社会が直面している様々な課題に対応し、活力ある社会を構築します。

男女共同参画の推進づくり、ワーク・ライフ・バランスの推進などを通じて、男女または社会的・文化的に形成された多様な性別のあり方についても考慮しながら、一人ひとりがどのようなライフステージにおいても、健康で充実した生活を送ることができると目指します。

**6**

**リビングラボの推進**

リビングラボとは、実際に人々が生活する中で社会課題を重くしていく手段なく、地域のひととも参画しながら、地域の課題解決に向けて話し合いをすすめていきます。

※サンプル例



### ポイント

- ① 1 施策を見開き 2 ページで構成し、見やすく手に取りやすい計画に
- ② 各分野における現状と課題を整理
- ③ 関連するSDGsの目標を明確に
- ④ 主な施策や取組を紹介
- ⑤ 数値目標を紹介
- ⑥ 個別計画（上のサンプルとは異なります）



# (ウ)策定作業の項目及び内容説明

令和4年度

## (1)市の現況把握及び構造の分析

各種統計資料等をもとに社会動向の変化や山州市の現状、課題等の分析を行います。また、現地調査やビッグデータ分析など、市の特徴を多角的に捉え、特性や課題の抽出を行います。

- ①社会動向の変化と見通し
- ②市の現状・課題、将来フレーム等の調査分析(人口、産業、土地利用、財政など)
- ③関連計画の整理・分析
- ④ビッグデータ分析
- ⑤現地調査の実施等

## (2)市民アンケート調査の実施と報告書の作成

山州市のまちづくりへの住民関心度を高めるため、また、市民ニーズを把握することを目的に、市民アンケート調査を実施します。

住民2,100人(無作為抽出)

1. 調査票の設計は前回調査と比較。
2. Webアンケートと紙のアンケートの併用が行えるように実施。

高富  
富岡  
梅原  
桜尾  
大桑  
伊自良北  
伊自良南  
いわ桜  
美山小

市内を9地区に分類し、傾向と課題を分析します。また、性別や年齢等の属性分析を行います。

中学生意識調査(アンケート)

1. 調査票の設計は前回調査と比較を行うことができるよう調整します。
2. 中学生600人程度を対象  
※タブレットを用いたWebアンケート

高富中学校  
伊自良中学校  
美山中学校

3中学校を対象にアンケートを実施し、一般市民との差異などを把握します。

基礎調査の活用

以下に、主な調査項目を列挙します。

- 属性(性別、年齢、居住地区等)
- 山州市への愛着度
- 定住意向
- 各分野の満足度・重要度
- 行動特性
- 人口減少対策のアイデア
- 自由意見

### ポイント

次期計画において設定する重点プロジェクトは、人口減少対策(デジタル田園都市国家構想総合戦略)を掲げることから、アンケートで**人口減少対策のアイデア募集を実施**します。

この結果を踏まえて、庁内各課における検討のほか、後述する職員研修において、政策提案につなげていく取組につなげ、住民・職員相互によるアイデアを結集させた総合戦略を策定していきます。

## 職員意識調査（アンケート）

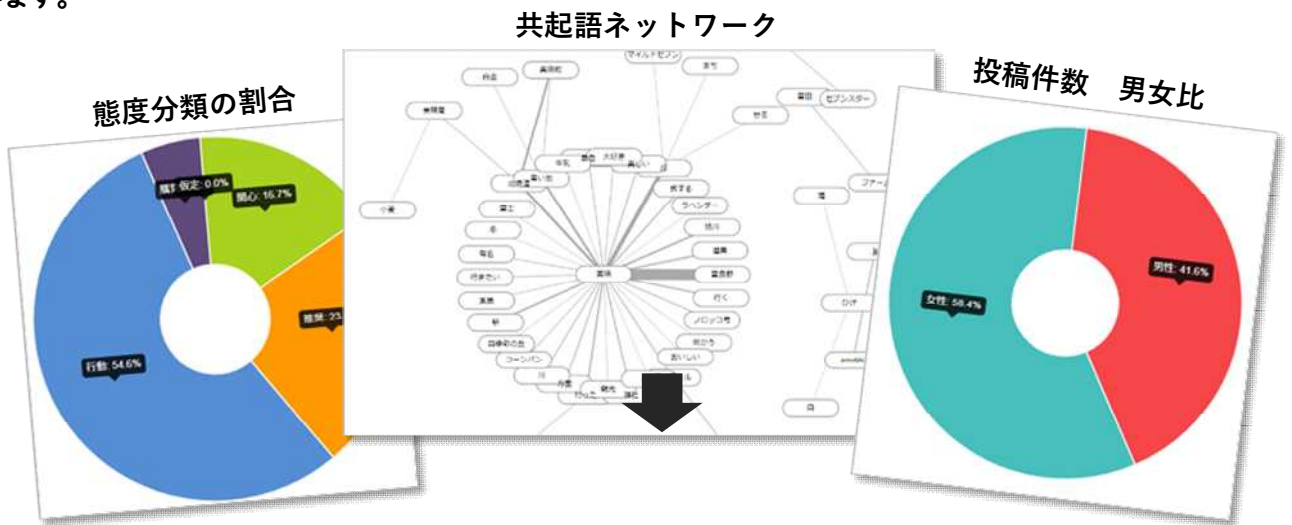
「市民アンケート調査の実施と報告書の作成」の際に、**全職員対象にしたアンケート調査を実施（Webアンケート）**し、一般市民や中学生との意識ギャップなどを測ります。

また、人口減少対策のアイデア募集や、DXへの取組アイデア募集等も兼ねて実施します。

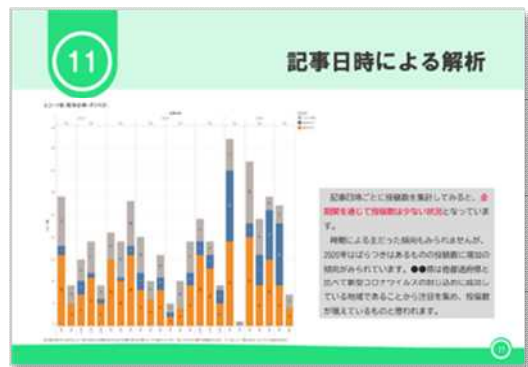
## 地域特性の分析例（口コミ解析）

地域特性の分析手法としては、人口や世帯数の現状と推移、産業構造の把握等、様々なアプローチがありますが、その一つに市内外の一般の人々からみた客観的な地域の印象を探るという手法も考えられます。

**インターネット上のブログ記事を対象にビッグデータ解析を行い、客観的な地域像を把握する口コミ解析を実施します。**インターネット上の記事は、何らかの根拠に基づいた事実である保証がないため、あくまでも参考資料とはなりますが、市がどのように見られているかを客観的に把握するひとつの材料となります。



口コミ解析報告書（例）



### (3) 現行計画の進捗状況の確認

計画の進捗管理は「事務事業評価」で既に実施されていることから、上のレベルの施策単位で担当課ごとに各課ヒアリングを実施し、課題の抽出・整理を行います。

# (ウ)策定作業の項目及び内容説明

令和5年度

## (1) トップインタビューの実施

トップインタビューを実施し、市長の思い描く、これからの山県市の姿や、これからのまちづくりのビジョンについて確認し、目指すまちの姿を共有します。

## (2) 人口分析

令和2年の国勢調査結果を踏まえ、自然動態・社会動態における推移変化、実際の転入・転出状況を踏まえた属性分析・家族構成分析等を行います。例えば、子育て世代4人家族が毎年何世帯転入してくると、人口規模が維持できるのかなどを試算し、総合戦略の具体的目標値の設定につなげていくような分析を行います。

## (3) 第3次山県市総合計画案の策定

基本計画のレイアウトや重点テーマの作成について、調整を行います。基本構想及び基本計画の作成・修正を繰り返し、案を策定します。

### 若手職員研修（総合計画）

このワークショップでは、DX化・SDGsの促進、GX、FX等、人の代わりにPC上の動作を代行する「RPA」など様々なトピックを扱います。

職員が意見交換をしながら、トピックに関する理解が深まるだけでなく、計画策定に対する当事者意識を高め、政策提案を行います。

具体的かつ優秀な提案は、総合計画において重点プロジェクトに位置付けることも検討します。

#### 1回目

「自治体DXと総合計画とは」

- 自治体DXの全体像、事例紹介

「山県市は外から  
どう見られているか」

- ブログ解析による傾向と特徴

#### 2回目

「増え続ける業務を効率化し、  
重点政策に力を入れていくため  
の方策を考える」

- AI、IoT、RPA、ビッグデータ分析などの業務効率化の方策を検討し、共有する
- 今すぐに行うこと、時間をかけて行うことなどを検討する
- 弱点を克服し、強みを活かすために取り組むべきことを検討する

#### 3回目

「具体的な提案を行う」

- どうしたらムダ・ムリ・ムラを排除し、経営資源を重点政策に集中させることができるのかを市幹部に提案するコンペ方式をとり、プレゼンテーション能力の向上も目指す

## (ウ)策定作業の項目及び内容説明

### (4) パブリックコメントの実施

パブリックコメントを実施します。

### (5) 審議会等の運営

本計画策定にあたり、次のような会議を予定しています。

令和4年度	第1回	第2回
ア 総合計画・戦略審議会	自己紹介、意見交換	アンケート調査結果、第2次総合計画進捗状況について
イ 策定委員会	概要説明 (スケジュール等)	アンケート調査結果、第2次総合計画進捗状況について
ウ 庁内ワーキング		

令和5年度	第3、4回	第5、6、7回	第8回
ア 総合計画・戦略審議会	基本構想について	基本計画について	基本計画について、 答申
イ 策定委員会	基本構想について	基本計画について	基本計画について
ウ 庁内ワーキング			

### (6) 概要版の原稿作成

確定した次期計画を踏まえ、計画内容を要約した概要版の原稿を作成します。

### (7) 計画書及び概要版のデータ作成

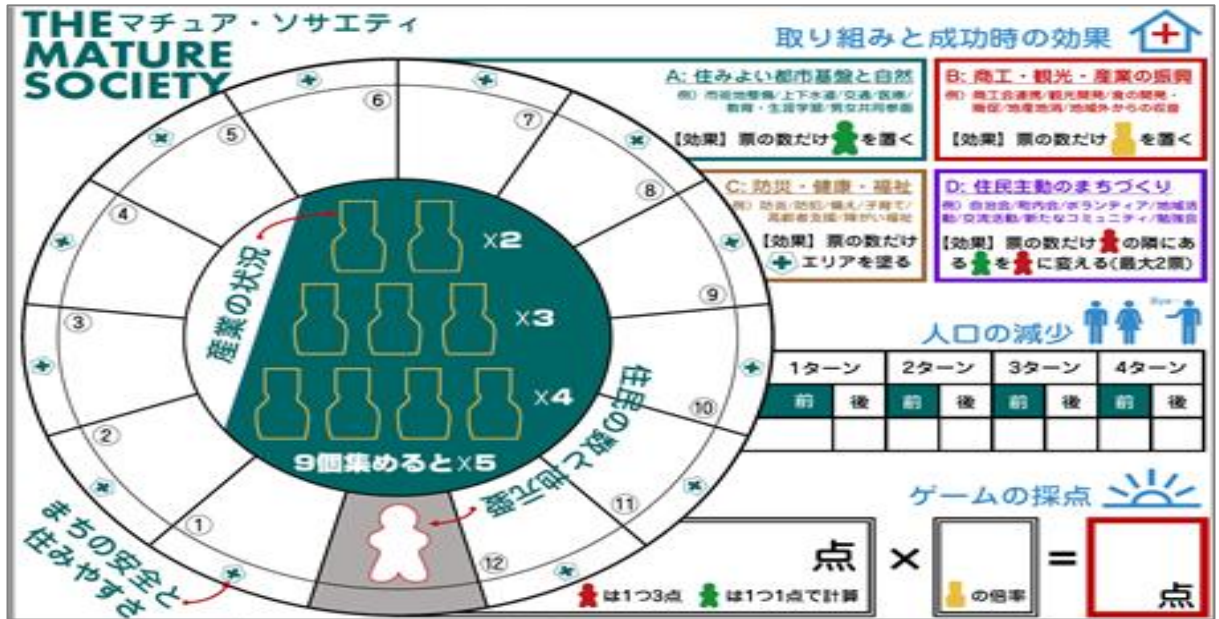
デザイナーを加え、製本作業を行います。

写真・イラストやグラフを用い、**住民にとって視覚的にも親しみやすく分かりやすい工夫**を行います。



# (ウ)策定作業の項目及び内容説明

## 職員ワークショップ



## まちづくりゲーム

### 「マチュア・ソサエティ」によるワークショップ

「マチュア・ソサエティ」は、「住みよい都市基盤と自然」、「商工・観光・産業の振興」…等各分野を巡って、点数制の政策提案ゲームを行っていくものです。2時間程度のワークショップのなかで、「人口減少社会における政策立案」を主眼として開発されました。参加者の意識を高めながら、楽しみつつ施策アイデアを生み出せる点が利点です。

#### ステップⅠ：ファシリテーターによるルール説明

ファシリテーターから、ゲームの進め方、シートや準備物の使い方、プレイヤー1人につき1つのまちのまちづくりを考えていくこと、などが説明されます。

#### ステップⅡ：自分のまちで取り組みたい施策を考え、発表

4人で1グループを形成し、各人がグループのメンバーに対して自分のまちで取り組みたい施策をプレゼンします。

#### ステップⅢ：賛同を得られた分、自分のまちの人口増減や産業の状況に反映される

発表された施策についてグループ内で投票を行い、得られた票数により自分のまちの人口が増減したり産業が発展したりすることになります。

#### ステップⅣ：ステップⅠ～Ⅲを3回繰り返し、最終的なまちの状況を採点

3回(※)が終了した時点で、自分のまちの人口の増減や産業の状況、地元愛の形成等の指標をもとに採点を行います。※回数は所要時間により前後します。

#### ステップⅤ：振り返りを行う

ゲーム終了後には、点数が高ければ良いまちと言えるのか？低ければわるいまちなのか？についてや、“良いまち”とは何か？についてグループで話し合ったり、考えていただいたりします。また、参加した方同士でゲームの感想や気づきを共有してもらい、山県市の現状や展望についても考えていただきます。

# (エ)作業工程スケジュール

【令和4年度】

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
(1) 市の現況把握及び構造の分析				[Bar]									
(2) 市民アンケート調査の実施と報告書の作成	①一般市民				調査準備	実施		分析等					
	②中学生				調査準備	実施		分析等					
	職員						調査準備	実施	分析等				
(3) 現行計画の進捗状況の確認						[Bar]							
(4) 審議会等の運営					●						●		
(5) 主要課題の整理										[Bar]			

【令和5年度】

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
(1) トップインタビューの実施		●										
(2) 人口分析	[Bar]											
(★) 若手職員研修(DX・総合計画)	●	●	●									
(3) 第3次山県市総合計画案の策定		基本構想	修正	基本計画	修正	修正	修正	修正	修正	修正		
(4) パブリック・コメントの実施									[Bar]			
(5) 審議会等の運営	審議会		●	●		●	●	●		●		
	本部会議		●	●		●	●	●		●		
(6) 概要版の原稿作成											[Bar]	
(7) 計画書及び概要版のデータ作成											[Bar]	